

# この1年で新たな取り組みを

中部地質調査業協会の理事長に就任したのは2回目。前回就いた2009年度は、「業界全体が冷え切って、非常に厳しい時代だった」と振り返る。建設投資はここ5年で少し持ち直したとみるが、新たに浮上したかつて経験したことのない大規模自然災害への懸念や、同協会が法人格を取得しターニングポイントを迎えていることなどに触れ、「建設業界の最上流にいる地質調査業の役割と責任は大きい。まずはこれまで行ってきた活動を続けながら、この1年で新たな取り組みを考えていく」と話す。

頻発する地盤災害で、地盤情報が目まぐるしく、地下情報も活発だ。長年培ってきた地盤情報のデータベース化も上部団体の全地連が推進しており、「国が積極的に進めているICT化に役立てたい」と強い思いをのぞかせる。また、業界が抱える喫緊の課題である、若年層

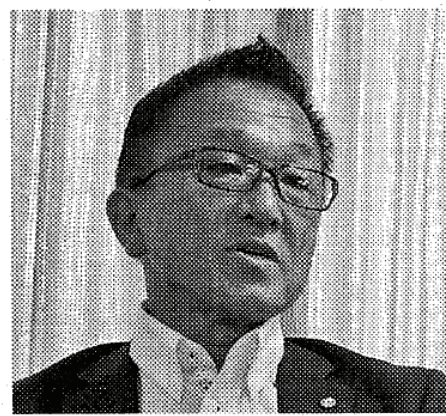
や女性の人材確保についても「発注者と意見を交わし、労働時間短縮や休日確保のための工期設定、賃金アップのための業務単価の引き上げなどを引き続き要望し、魅力ある業種にしていく」と力強く語る。

最近の趣味はダイビング。「日常の煩わしさから解放され、何も考えずに海に潜ることが一番のストレス解消法」。「意志あるところに道は開ける」が座右の銘。この業界が抱える難局へ「意志」あるチャレンジが始まる。

(名古屋支局 包國大輔)

現在、協会の構成は地元業者と支店業者が2対1の割合。企業規模の大小や地域特性の違いはあるが、

## 人物 テレビ



【略歴】1980年名古屋大学経済学部を卒業後、東邦地水入社。91年取締役東京支社長、97年取締役副社長を経て、00年代表取締役社長に就任。三重県四日市市在住。58年3月31日生まれ。59歳

中部地質調査業協会理事長 **伊藤 重和さん**